



コスタリカ国草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 9

2016.6.23

～改善活動の振り返り～

NPO 法人イフパット 研究員 小林沙羅
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

オロティナでは雨季が始まりました。午前中は乾季の時のように日差しが強く暑いのですが、午後になり雲が出ると空が暗くなり激しいスコールが降ります。時に、会話が聞こえないほどの強い雨となります。オロティナの人たちはこの雨の中で昼寝することが大好きです。ワークショップが始まる午後2時には雨が降るようになりましたが、サンタリタ村の女性達は引き続き生活改善活動への参加を続けています。



サンタリタ村では前回の個人・家庭レベルの活動計画に続き、活動の振り返りを行いました。もう一度、計画・実施・振り返りのプロセスを確認し、お金がかかる・かからない改善があることを説明した後、個人・家庭レベルでアクションを起こした女性は発表するように促されました。家庭訪問を通しては、カマドに煙突と屋根を付けた女性と、庭の清掃を始めた女性しか把握できていなかったもので、場が静まり返るのではないかと心配しながらの振り返りでした。予想とは違い、次々に手が挙がり女性達が家に帰って起こしたアクションについて紹介してくれました。

・ディナ：以前生活改善ワークショップの中で油の量を減らし、バランスの良い食事をする重要性を学び、さっそく家でも少量の油でコメを調理してみたら美味しかった。その後、油の減量と野菜・肉・米のバランスが取れた食事を心がけている。

・マヌエラ：健康のために、毎週金曜日に5分でも良いので運動をするように自分で決めた。また、家族と過ごす時間が少ないことに気づき、毎日携帯を見る時間を減らし、その分家族と会話するようにしている。

・マリエロス：以前は家事を完璧にこなさなくてはという強迫観念があったが、少しずつ改善するということを学び、ストレスが少ない生活習慣を実践する出来ようになった。



・イサベル：蚊に悩まされていたが、孫たちと家周りを少しずつ片づけ、ゴミを掃除し始めた。

・グレイス：毎日豆などを調理するために多くの時間や燃料を使っていた。ガスを買えない時は外のカマドを使って薪で調理する。鍋帽子の作り方を学んで使ってみたところ、調理の時間と燃料を節約することが出来た。

彼女たちの自己評価は一様に「良い」でした。まだ始めたばかりなので、「とても良い」にはなりませんでしたが、まずは小さな変化を実感し始めたようです。

「お金をもらえないとわかったら来なくなる」と言われていたサンタリタ村の女性達ですが、小さいながらも日常生活に密着したアクションを起こすことで、少しずつ援助へ依存する発言もなくなり自信に繋がっているようです。最後にはファシリテーターが大声で叫ばないと収集がつかないくらいに、話し声と笑い声が絶えない振り返りになりました。

ワークショップからの帰り道、市役所のファシリテーターの一人と話す中で「サンタリタ村の女性達はやる気があるので、村に行きたくなる」という発言がありました。コスタリカの市役所には普及機能はなく、市役所職員は社会事業担当者と税金・水道代を集める窓口担当者、違法建設や駐車を取り締まる担当者を除いては市民と直接かかわる機会はありません。時に中央政府から予算が来れば道路建設などインフラ事業を実施することはありますが、公共サービスとして、住民への受益のために働いているという意識は職員と話す中ではあまり感じられません。当事業に市役所からファシリテーターとして参加しているのも予算計画と人事担当者で日頃から市民との直接的な関わりはありません。最初は私自身が無理を言っても村に連れて行くという形でした。今回の発言で、ファシリテータ

一自身が、現場に入りながら女性達との化学反応を目の当たりにすることで、ファシリテーターの意欲にも繋がることもわかって来ました。